

# 景 気 動 向 調 査

( 第 141 回 )

2006 年 1 月 ~ 3 月 期 実 績

2006 年 4 月 ~ 6 月 期 予 測

株 式 会 社 北 日 本 銀 行

経 営 企 画 部

## 目 次

調査要領	.....	1
概 況	.....	2
1. 県内景況感について	.....	4
2. 業況について		
(1) 売上高または出荷高	.....	5
(2) 生産高または仕入高	.....	6
(3) 在 庫	.....	7
(4) 収 益	.....	8
(5) 販売価格・仕入価格	.....	9
3. 設備投資の動向について		
(1) 設備投資の実施状況	.....	10
(2) 設備投資の目的	.....	11
4. 資金繰り状況について		
(1) 資金繰り状況	.....	12
(2) 現金・預金	.....	13
(3) 金融機関借入	.....	13
(4) 販売代金回収期間	.....	14
(5) 仕入代金決済期間	.....	14
5. 経営上の問題点について	.....	15

## 調 査 要 領

この報告は、岩手県内企業各社のご協力をもとに、下記の要領により景気動向の調査を行ったものです。

### 記

- 1．実施時期            2006年3月下旬～2006年4月上旬
- 2．調査対象期間      2006年1月～3月期実績  
                          2006年4月～6月期予測
- 3．調査の方法        郵送による無記名のアンケート方式（年間4回）
- 4．対象先             岩手県内企業 400社
- 5．回答数             245通（回答率 61.25%）  
                          <内訳> 製造業 75社 建設業 66社 卸・小売業 104社
- 6．調査の主要項目    (1) 業況について  
                          (2) 設備投資の動向について  
                          (3) 資金繰りの状況について  
                          (4) 当面する経営上の問題点について

以 上

### 【本文用語説明】

「増加」～グラフ上の「増加」および「やや増加」

「減少」～グラフ上の「減少」および「やや減少」

DI（ディフュージョン・インデックス）～

「景気動向指数」のことで、各項目について「増加」（増加およびやや増加）と回答した企業の比率から「減少」（減少およびやや減少）と回答した企業の比率を減じた数値である。この値が「0」の場合は、「増加」と「減少」が等しいことを示し、プラスとなるほど「増加」が多く、マイナスになるほど「減少」が多いことを意味する。

(注) 「上昇・低下」「楽になった・苦しくなった」「長くなった・短くなった」の回答についても同様に読み替える。

ただし、「販売代金回収期間」については、「短くなった」-「長くなった」で算出している。

# 概 況

～ 県内景況感 4 期連続で上向きに ～

2006 年 1～3 月期の岩手県内企業の景況感 D I は、全体で 40.0 と前期 51.0 より 11.0 ポイントほど上向きとなった。

今回調査で 4 期連続で上向きとなり、緩やかながらも少しずつ好転してきていることが窺える。次期見通しでは景況感 D I が 21.8 と更に上向き予想となっているが、原油の高騰ほか懸念材料もみられることから、4 月以降の景気動向が注目される。

項目別に前回調査時（2005 年 10～12 月期実績）と比較してみると、景況感については 4 期連続で上向きなど明るさがみえてきている。個々の項目では、設備投資が全業種で上向き、資金繰りも 2 期連続で上向いているが、売上高では製造業、建設業が伸びており、収益では製造業、建設業の改善の動きが目立った。今回の調査においては、卸・小売業が足踏み状況だったのに比し、建設業に改善の兆しがみられ、製造業が先期に引き続いた改善の動きが目立つ結果となっている。

国内経済をみると、企業収益の改善が着実に進み、設備投資も底堅く増加しているとともに、鉱工業生産も内外需の増加から持ち直しており、企業倒産件数も低水準で推移している。雇用情勢は依然厳しさが残るものの改善に広がりが見られ、所得改善の動きを受け、個人消費も緩やかながら増加しており、全体的には改善基調で推移している。金融情勢は、株価が国内景気の回復期待の高まりから上昇し、日経平均株価が 2000 年 9 月以来の 1 万 7 千円台に達するとともに、金利は 3 月に日銀の量的緩和政策の解除を受け、長期金利が上昇している。

一方、最近の岩手県内経済をみると、鉱工業生産は自動車関連の増産等持ち直しの動きもみられるが、財政緊縮を反映して公共投資が大きく落ち込み、住宅建設も分譲マンション以外は弱含みで推移している。また、県内の雇用・所得面の回復が緩慢なことから、個人消費も昨年末の寒波到来で防寒衣料や暖房器具が伸びたほかは総じて低調に推移している。このように一部には改善の動きがみられ明るい兆しも窺われるが、総体としては景気回復への足取りは弱く横ばいの状況が続いている。

< 参考 >

## 岩手県内企業「景況感 D I」ワーストランキング

	調査回次	対象期間	景況感 D I
1	第 124 回	01 年 10～12 月	91.2
2	第 109 回	98 年 1～3 月	90.6
3	第 111 回	98 年 7～9 月	90.0
4	第 108 回	97 年 10～12 月	89.7
5	第 110 回	98 年 4～6 月	89.3

(1971 (昭和 46) 年以降)

## 1. 県内景況感について

全体のD Iは、今回調査では 40.0 と前期比 11.0 ポイント上昇した。各業種別のD Iをみると、製造業が 11.9 ポイント、建設業が 14.9 ポイントと大きく上昇したほか、卸・小売業でも 8.2 ポイント上昇している。

4～6 月期も、全業種で今期より 10 ポイント以上上昇する見通しとなっており、懸念材料もあるものの景況感の上昇傾向が続くことが期待される。

## 2. 業況について

### (1) 売上高または出荷高

D Iが、製造業 0.0、建設業 6.1 とプラス水準になるなど、卸・小売業を除いて上昇している。

### (2) 生産高または仕入高

製造業の生産高、卸・小売業の仕入高とも先期に続いて上向いており、特に製造業の生産高は二桁のプラス水準へ大きく上向いた。

### (3) 在 庫

製造業の製品在庫は上向きとなり、卸・小売業の商品在庫は下向きとなって、前期と反対の動きがみられた。しかし、総体的には在庫状況に大きな変動はみられない。

### (4) 収 益

卸・小売業で下向いたが、製造業、建設業で上向いたことから、全体でも 4 期連続で上向いた。

### (5) 販売価格・仕入価格

販売価格は 6 期連続で上向きとなった。仕入価格も上向きとなっており、D Iはプラスの高い水準で推移している。

## 3. 設備投資の動向について

全体で見ると設備投資を「実施した」企業は 20.2%と全業種で上向きに転じた。来期も全業種で上向き見通しとなっている。

なお、設備投資の目的をみると、「生産・販売能力の増加」「生産・販売能力の維持更新」の割合が引き続き高くなっている。

## 4. 資金繰り状況について

製造業で大きくポイントを伸ばすなど、全業種で上向いている。しかし、来期の見通しについては、全業種で下向き予想となっている点が注目される。

## 5. 経営上の問題点について

上位の 4 項目、「売上・受注不振」「過当競争」「収益不振」「販売価格安」は変わっていないが、製造業では「原材料・仕入価格高」が 2 位となり他業種に比して比率が高くなっている。

# 1. 県内景況感について

## ～ 4期連続で上向く ～

【1～3月期の実績】 県内の景況感（前年同期比）についてみると、全業種では「良い」と答えた企業が9.8%（前期7.7%）、「悪い」が49.8%（同58.7%）で、DIは△40.0（同△51.0）と、11.0ポイント上昇し4期連続で上向いた。

業種別の景況感（DI）をみると、**製造業**が△33.4（同△45.3）、**建設業**が△37.9（同△52.8）、**卸・小売業**が△46.2（同△54.4）と全業種で上向いた。

【4～6月期の見通し】 4～6月期見通し（前年同期比）をみると、全業種では「良くなる」とみる企業が16.5%、「悪くなる」が38.3%であることから、DIは△21.8となり、1～3月期実績と比較すると指標は18.2ポイント上向く。

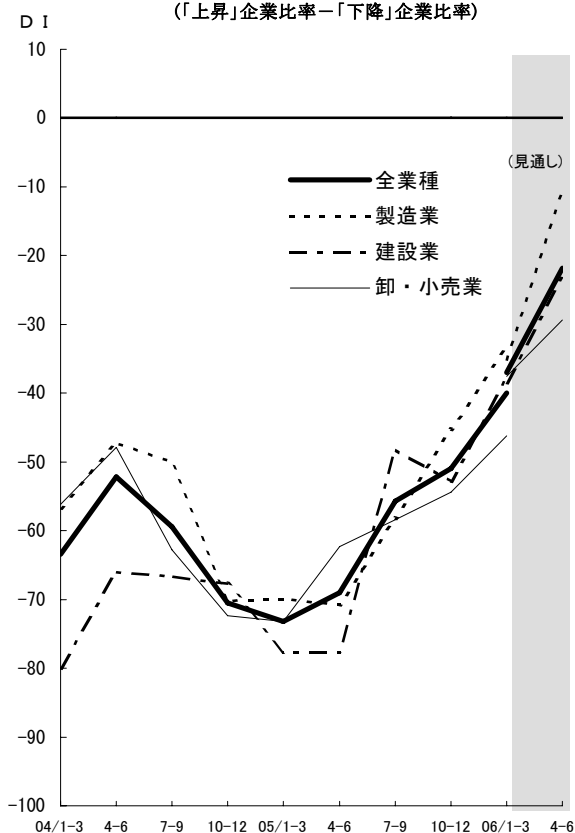
業種別にみると、**製造業**が△10.7、**建設業**が△23.1、**卸・小売業**が△29.4となっており、1～3月期実績と比較して全業種で10ポイント以上上向く見通しの回答結果だった。

県内景況感(前年同期比)

		（％）					DI
	期	良い	やや良	不変	やや悪	悪い	
全業種	1～3月 (実績)	0.4	9.4	40.4	29.8	20.0	-40.0
	4～6月 (見通し)	0.0	16.5	45.2	23.5	14.8	-21.8
（製造業）	1～3月 (実績)	1.3	9.3	45.4	25.3	18.7	-33.4
	4～6月 (見通し)	0.0	21.3	46.7	20.0	12.0	-10.7
（建設業）	1～3月 (実績)	0.0	13.6	34.9	27.3	24.2	-37.9
	4～6月 (見通し)	0.0	21.5	33.9	24.6	20.0	-23.1
（卸・小売業）	1～3月 (実績)	0.0	6.7	40.4	34.6	18.3	-46.2
	4～6月 (見通し)	0.0	9.8	51.0	25.5	13.7	-29.4

県内景況感(前年同期比)

（「上昇」企業比率－「下降」企業比率）



## 2. 業況について

### (1) 売上高または出荷高

#### ～ 建設業で大きく上向く ～

**[1～3月期の実績]** 売上・出荷実績(前年同期比)をみると、**全業種**では「増加」と答えた企業が38.4%(前期 30.9%)、「減少」が41.3%(同 40.8%)となり、DIは△2.9(同△9.9)と、4期連続上向いた。

業種別にDIをみると、**製造業**0.0(前期△9.3)、**建設業**6.1(同△12.7)、**卸・小売業**△10.6(同△8.7)と卸・小売業を除いて上向きとなり、特に建設業がプラスの水準まで上昇した。

**[4～6月期の見通し]** 4～6月期見通し(前年同期比)をみると、**全業種**では「増加」とみる企業が28.5%、「減少」が31.4%であることから、DIは△2.9で、1～3月期実績と同じ予想となっている。

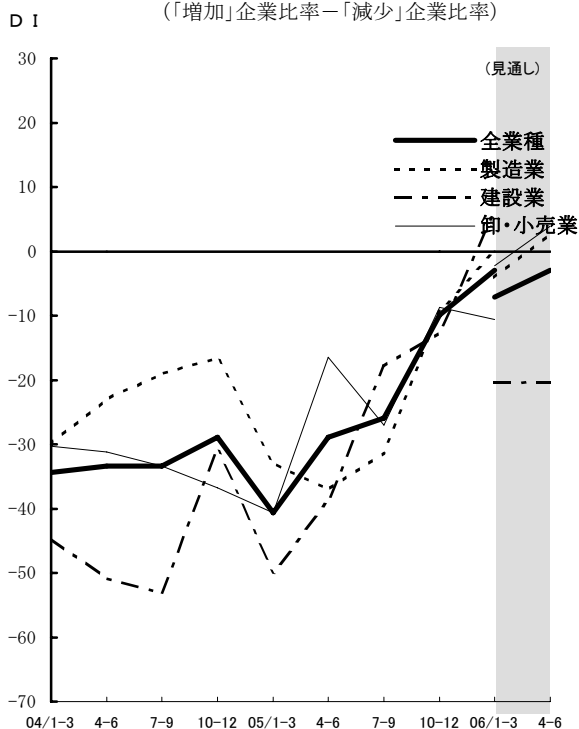
業種別にDIをみると、**製造業**で2.7、**建設業**で△20.3、**卸・小売業**で3.9となっており、1～3月期実績と比較して建設業だけが下向く見通しとなっている。

売上高または出荷高(前年同期比)

		(%)					DI
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	1～3月(実績)	8.2	30.2	20.3	28.6	12.7	-2.9
	4～6月(見通し)	4.1	24.4	40.1	21.5	9.9	-2.9
(製造業)	1～3月(実績)	10.7	29.3	20.0	32.0	8.0	0.0
	4～6月(見通し)	5.3	26.7	38.7	21.3	8.0	2.7
(建設業)	1～3月(実績)	10.6	36.4	12.1	21.2	19.7	6.1
	4～6月(見通し)	3.1	21.9	29.7	25.0	20.3	-20.3
(卸・小売業)	1～3月(実績)	4.8	26.9	26.0	30.8	11.5	-10.6
	4～6月(見通し)	3.9	24.3	47.5	19.4	4.9	3.9

売上・出荷動向(前年同期比)

(「増加」企業比率-「減少」企業比率)



## (2) 生産高または仕入高

### ～ 製造業、卸・小売業とも上向く ～

**[1～3月期の実績]** 生産高・仕入高実績（前年同期比）をみると、**製造業**（生産高）では「増加」と答えた企業が42.7%（前期26.3%）、「減少」が29.3%（同40.8%）で、DIは13.4（同△14.5）と大きく上向いた。

**卸・小売業**（仕入高）でも、「増加」と答えた企業は34.6%（前期32.6%）、「減少」が35.6%（同36.0%）で、DIは△1.0（同△3.4）と上向いた。

**[4～6月期の見通し]** 4～6月期見通し（前年同期比）をみると、**製造業**（生産高）については、「増加」と答えた企業が29.3%、「減少」が25.3%であることから、DIは4.0で、1～3月期実績と比較して下向く見通しとなっているが、プラス水準を維持。

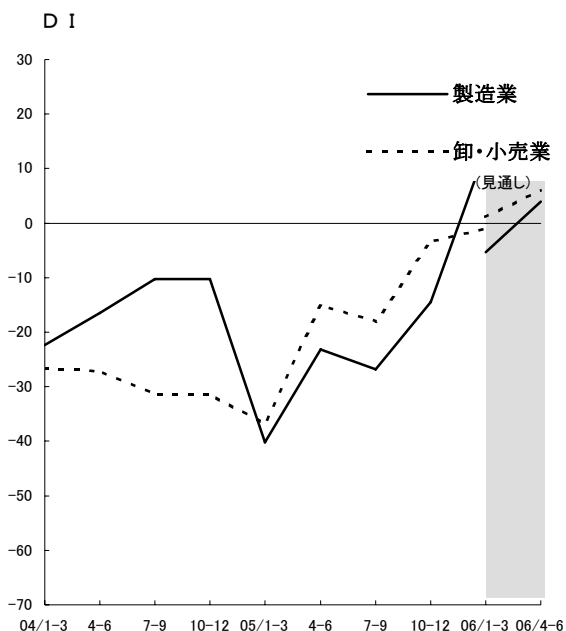
**卸・小売業**（仕入高）については、「増加」と答えた企業が26.0%、「減少」が20.0%であることから、DIは6.0となり、1～3月期実績と比較して上向く見通しとなっている。

生産高または仕入高(前年同期比)

		(%)					DI
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
(製造業)	1～3月 (実績)	10.7	32.0	28.0	21.3	8.0	13.4
	4～6月 (見通し)	5.3	24.0	45.4	17.3	8.0	4.0
(卸・小売業)	1～3月 (実績)	6.9	27.7	29.8	28.7	6.9	-1.0
	4～6月 (見通し)	5.0	21.0	54.0	16.0	4.0	6.0

生産・仕入動向(前年同期比)

(「増加」企業比率－「減少」企業比率)





(3) 在 庫

～ 製造業の製品在庫上向き、卸・小売業の商品在庫は下向き ～

【1～3月期の実績】 在庫状況実績（前年同期比）をみると、製造業では、製品在庫が「増加」と答えた企業は22.8%（前期14.9%）、「減少」が25.7%（同33.8%）であることから、DIは△2.9（同△18.9）となった。また、原材料在庫水準については「過大」が12.5%（同8.1%）、「適正」が76.6%（同82.2%）、「不足」が10.9%（同9.7%）である。

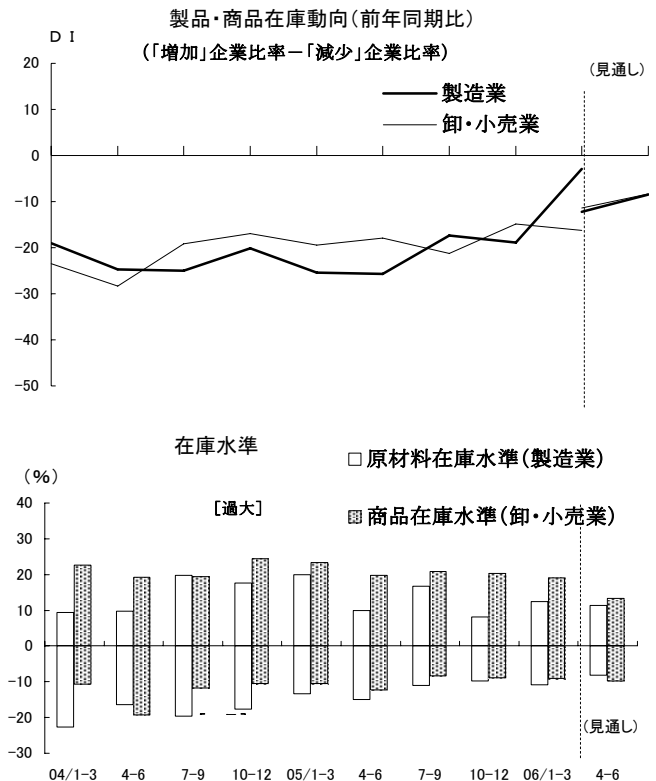
卸・小売業の商品在庫は、「増加」と答えた企業が11.2%（前期12.5%）、「減少」27.5%（同27.3%）であることから、DIは△16.3（同△14.8）となった。また、商品の在庫水準については、「過大」が19.1%（同20.3%）、「適正」が71.9%（同70.8%）、「不足」が9.0%（同8.9%）である。

【4～6月期の見通し】 4～6月期見通し（前年同期比）をみると、製造業の製品在庫は、「増加」とみる企業が12.9%、「減少」が21.4%で、DIは△8.5となっている。また、同じく原材料在庫水準については「過大」とみる企業が11.3%、「適正」が80.6%、「不足」が8.1%である。

卸・小売業の商品在庫については、「増加」とみる企業が10.4%、「減少」が18.7%であることから、DIは△8.3となっている。また、同じく商品の在庫水準については「過大」とみる企業が13.4%、「適正」が76.8%、「不足」が9.8%である。

製品・商品在庫(前年同期比)

		期					DI
		増加	やや増	不変	やや減	減少	
(製造業)	1～3月 (実績)	1.4	21.4	51.5	20.0	5.7	-2.9
	4～6月 (見通し)	0.0	12.9	65.7	17.1	4.3	-8.5
(卸・小売業)	1～3月 (実績)	2.0	9.2	61.3	21.4	6.1	-16.3
	4～6月 (見通し)	2.1	8.3	70.9	15.6	3.1	-8.3



#### (4) 収 益

#### ～ 製造業で大きく上向く ～

**[1～3月期の実績]** 収益動向実績（前年同期比）をみると、全業種では「増加」と答えた企業が27.7%（前期25.0%）、「減少」が45.4%（同47.7%）であり、D Iは△17.7（同△22.7）となり4期連続で上向きとなった。

業種別にD Iをみると、**製造業△8.0**（前期△21.1）、**建設業△19.1**（同△25.9）、**卸・小売業△24.0**（同△22.1）となり、卸・小売業が1.9ポイント下向いたが、製造業で13.1ポイント、建設業で6.8ポイント上向いた。

**[4～6月期の見通し]** 4～6月期見通し（前年同期比）をみると、全業種では「増加」とみる企業が23.3%、「減少」とみる企業が38.1%であることから、D Iは△14.8で、1～3月期実績と比較して上向く見通し。

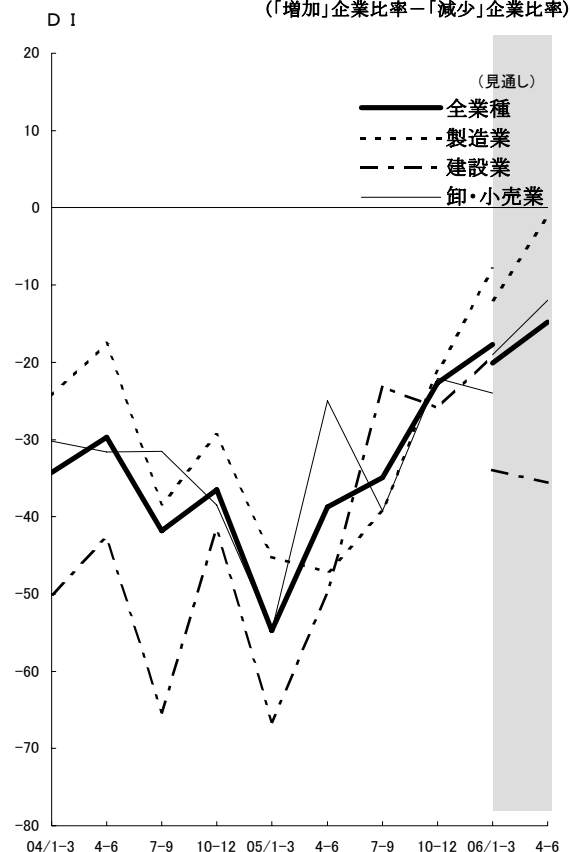
業種別にD Iをみると、**製造業は△1.3**、**建設業△35.6**、**卸・小売業△12.0**であり、1～3月期実績と比較して、建設業で下向く見通しとなっている。

収 益(前年同期比)

		D I (%)					D I
期		増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	1～3月 (実績)	3.8	23.9	26.9	30.3	15.1	-17.7
	4～6月 (見通し)	1.3	22.0	38.6	27.1	11.0	-14.8
(製造業)	1～3月 (実績)	4.0	30.7	22.6	28.0	14.7	-8.0
	4～6月 (見通し)	1.4	31.1	33.7	24.3	9.5	-1.3
(建設業)	1～3月 (実績)	6.3	20.6	27.1	25.4	20.6	-19.1
	4～6月 (見通し)	1.6	14.5	32.2	32.3	19.4	-35.6
(卸・小売業)	1～3月 (実績)	2.0	21.0	30.0	35.0	12.0	-24.0
	4～6月 (見通し)	1.0	20.0	46.0	26.0	7.0	-12.0

収益動向(前年同期比)

(「増加」企業比率-「減少」企業比率)



(5) 販売価格・仕入価格

～ 仕入価格のD Iはプラスの高い水準で推移 ～

**[1～3月期の実績]** 販売価格（前年同期比）をみると、全業種では「上昇」と答えた企業が17.0%（前期17.4%）、「低下」が25.3%（同30.2%）であることから、D Iは△8.3（同△12.8）と 上向きとなった。

仕入価格（前年同期比）をみると、全業種では「上昇」と答えた企業が32.1%（前期34.7%）「低下」が8.1%（同12.0%）であることから、D Iは24.0（同22.7）と上向きとなりプラスの高い水準で推移している。

**[4～6月期の見通し]** 4～6月期見通し（前年同期比）をみると、販売価格については「上昇」とみる企業が18.6%、「低下」とみる企業が25.0%であることから、D Iは△6.4で、1～3月期実績と比較して上向き見通しとなっている。

仕入価格については、「上昇」とみる企業が30.3%、「低下」とみる企業が10.4%であることからD Iは19.9となり、1～3月期よりも下向き見通しとなっている。

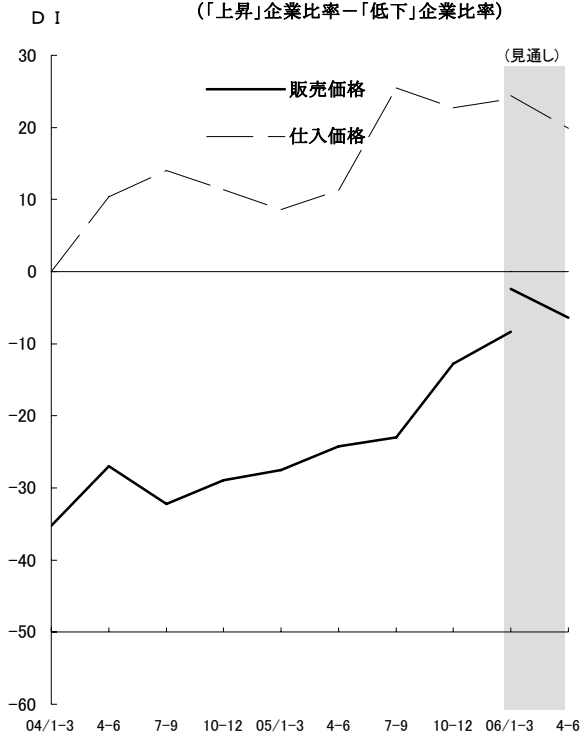
販売価格(前年同期比)

		D I (%)					
	期	上昇	やや上	不変	やや低	低下	DI
全業種	1～3月 (実績)	2.5	14.5	57.7	19.5	5.8	-8.3
	4～6月 (見通し)	0.8	17.8	56.4	20.3	4.7	-6.4

仕入価格(前年同期比)

		D I (%)					
	期	上昇	やや上	不変	やや低	低下	DI
全業種	1～3月 (実績)	7.6	24.5	59.8	6.8	1.3	24.0
	4～6月 (見通し)	3.0	27.3	59.3	9.5	0.9	19.9

価格動向(前年同期比)  
 (「上昇」企業比率-「低下」企業比率)



### 3. 設備投資の動向について

#### (1) 設備投資の実施状況

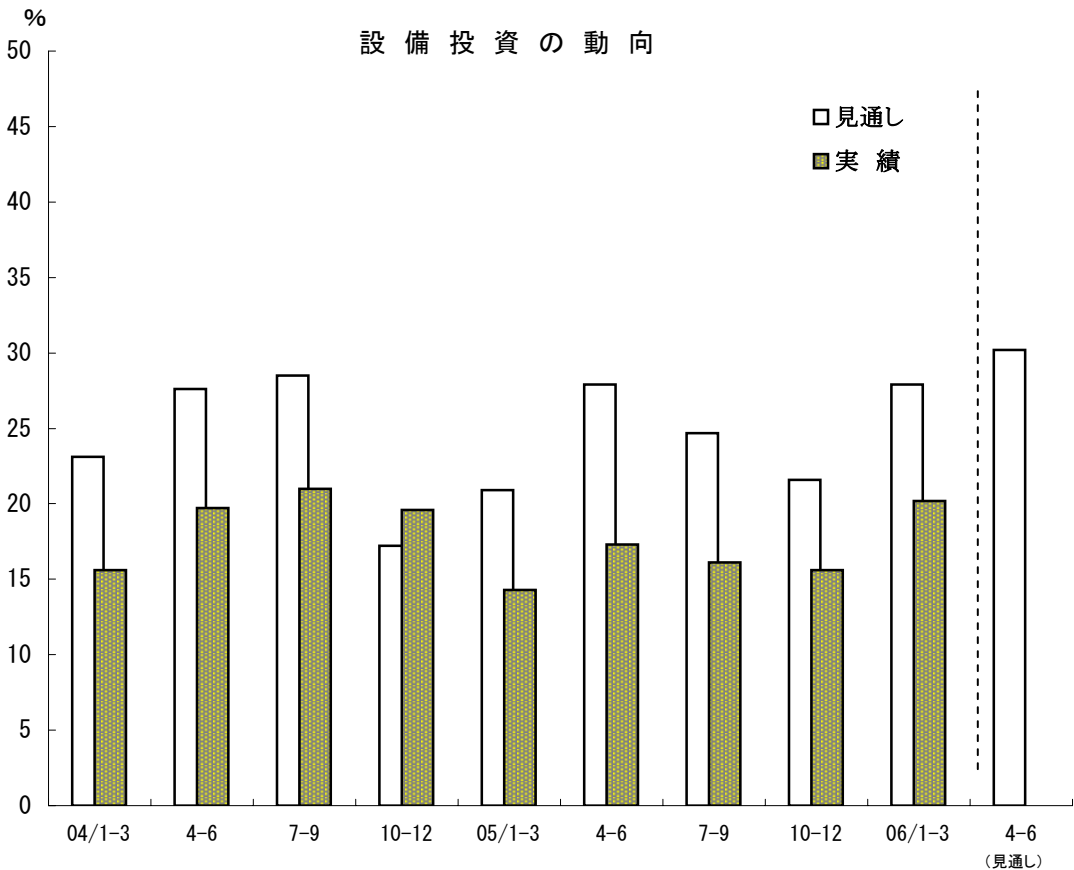
～ 全業種で上向く ～

【1～3月期の実績】 設備投資の実施状況をみると、**全業種**では「実施した」および「計画を縮小して実施した」と答えた企業は20.2%（前期15.6%）で、上向きに転じた。

これを業種別にみると、**製造業**が23.0%（前期19.0%）、**建設業**12.3%（同9.1%）、**卸・小売業**23.3%（同16.9%）と、全業種で上向いた。

【4～6月期の見通し】 今後3ヵ月の設備投資について**全業種**では「具体的な計画がある」と答えた企業は全体で17.6%（前期16.7%）、「計画はあるが具体化していない」は12.6%（同11.2%）、「計画はない」は69.8%（同72.1%）であった。「計画あり」は合計30.2%（同27.9%）と上向きとなっている。

業種別にみると、「具体的な計画がある」および「計画はあるが具体化していない」と答えた企業は、**製造業**で38.3%（前期31.5%）、**建設業**で20.3%（同16.7%）、**卸・小売業**で30.4%（同31.8%）と、製造業が大きく上向いている。



## (2) 設備投資の目的

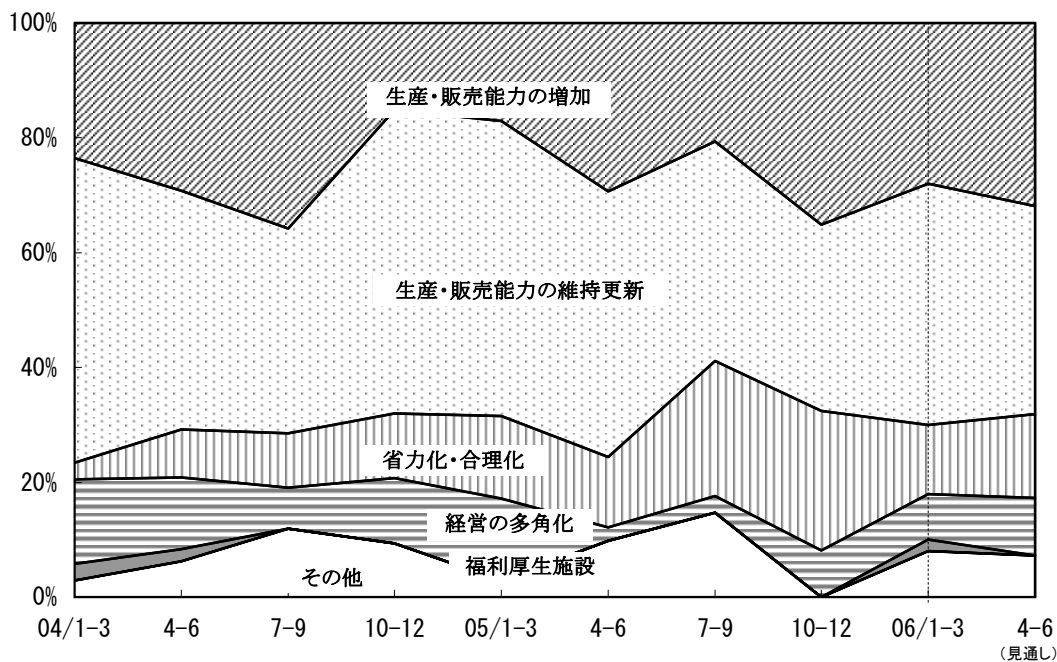
【1～3月期の実績】 今回の調査で「設備投資を実施した」と答えた企業(20.2%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」が42.0%（前期32.4%）でトップに上がり、以下、「生産・販売能力の増加」が28.0%（同35.1%）で2位に下がり、「省力化・合理化」が12.0%（同24.3%）で3位となっている。

業種別にみると、全業種で「生産・販売能力の維持更新」がトップで、「生産・販売能力の増加」が2位となっているが、製造業では「省力化・合理化」も同率で2位となっている。建設業と卸・小売業では「経営の多角化」が3位となっている。

【4～6月期の見通し】 今後3ヵ月の設備投資について、「計画あり」と答えた企業(30.2%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」が36.2%（前期29.8%）でトップとなり、以下、「生産・販売能力の増加」31.9%、「省力化・合理化」14.5%、「経営の多角化」10.1%の順となっている。

業種別では、建設業と卸・小売業で「生産・販売能力の維持更新」がトップとなっているが、製造業では「生産・販売能力の増加」が比率を伸ばしトップとなっている。

### 設備投資の目的



## 4. 資金繰り状況について

### (1) 資金繰り状況

#### ～ 2期連続で全業種上向く ～

**[1～3月期の実績]** 資金繰り状況（前期比）は、**全業種**では、「楽になった」とする企業が14.8%（前期13.9%）、「苦しくなった」が28.4%（同33.9%）であることから、D Iは△13.6（同△20.0）と上向いた。

業種別にD Iをみると、**製造業**が△2.8（前期 △15.8）、**建設業**が△18.4（同△27.2）、**卸・小売業**が△18.5（同△19.3）で、製造業で大きくポイントを伸ばすなど全業種で上向きとなっている。

**[4～6月期の見通し]** 4～6月期の見通し（当期比）をみると、**全業種**では「楽になる」とみる企業が14.8%、「苦しくなる」が30.0%で、D Iは△15.2となり、1～3月期実績（△13.6）と比較して、下向く見通しとなっている。

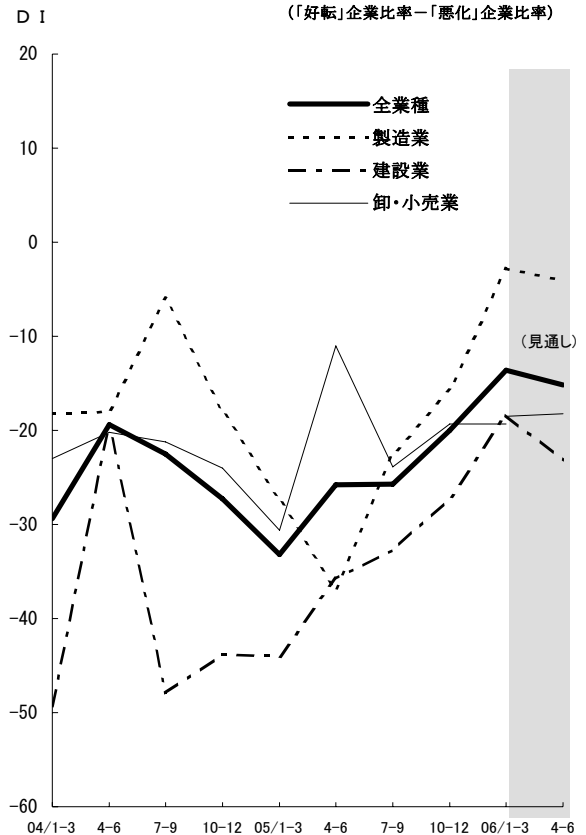
業種別にD Iをみると、**製造業** △4.1、**建設業** △23.1、**卸・小売業** △18.2となっており、1～3月期実績と比較して、卸・小売業だけ僅かに上向く予想となっている。

資金繰り(前期比)

		(%)					D I
	期	楽	やや楽	不変	やや苦	苦	
全業種	1～3 (実績)	1.6	13.2	56.8	20.6	7.8	-13.6
	4～6 (見通し)	1.2	13.6	55.2	23.0	7.0	-15.2
(製造業)	1～3 (実績)	1.3	21.3	52.0	18.7	6.7	-2.8
	4～6 (見通し)	0.0	21.6	52.7	18.9	6.8	-4.1
(建設業)	1～3 (実績)	3.1	10.8	53.8	23.1	9.2	-18.4
	4～6 (見通し)	3.1	9.2	52.3	29.2	6.2	-23.1
(卸・小売業)	1～3 (実績)	1.0	8.7	62.1	20.4	7.8	-18.5
	4～6 (見通し)	1.0	10.6	58.6	22.1	7.7	-18.2

資金繰り動向(前期比)

(「好転」企業比率-「悪化」企業比率)



## (2) 現金・預金

**[1～3月期の実績]** 現金・預金（前期比）については、「増加した」と答えた企業が12.3%（前期16.6%）、「減少した」が35.4%（同41.3%）であることから、D Iは△23.1（同△24.7）と上向いた。

**[4～6月期の見通し]** 4～6月期の見通し（当期比）をみると、「増加する」とみる企業が10.4%、「減少する」が28.7%であることから、D Iは△18.3（当期△23.1）と上向く予想となっている。

## (3) 金融機関借入

**[1～3月期の実績]** 金融機関借入金（前期比）については、「増加した」と答えた企業が22.6%（前期26.6%）、「減少した」が32.1%（同28.9%）であることから、D Iは△9.5%（同△2.3%）と下向いた。

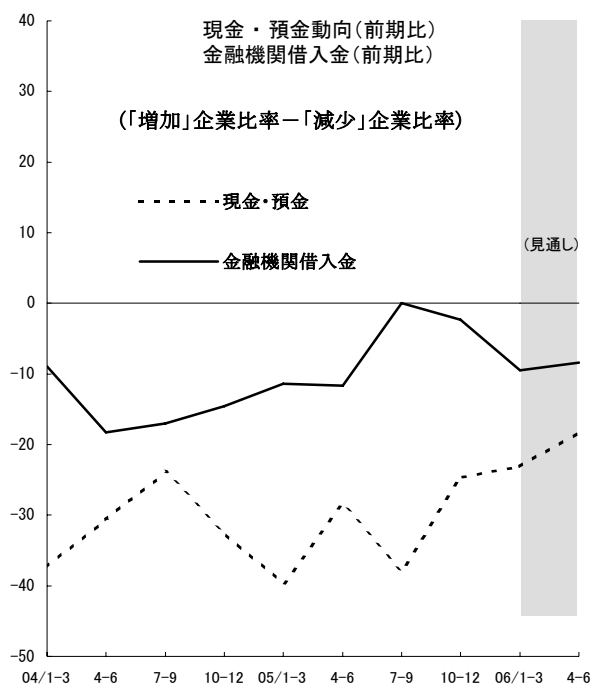
**[4～6月期の見通し]** 4～6月期の見通し（当期比）をみると、「増加する」とみる企業が17.7%、「減少する」が26.1%であることから、D Iは△8.4（当期△9.5）と上向く予想となっている。

現金・預金(前期比)

		（％）					DI
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	1～3 （実績）	1.6	10.7	52.3	24.7	10.7	-23.1
	4～6 （見通し）	0.8	9.6	60.9	20.4	8.3	-18.3

金融機関借入金(前期比)

		（％）					DI
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	1～3 （実績）	3.8	18.8	45.3	28.3	3.8	-9.5
	4～6 （見通し）	1.7	16.0	56.2	23.6	2.5	-8.4



#### (4) 販売代金回収期間

**[1～3月期の実績]** 販売代金回収期間（前期比）については、「短くなった」とする企業が2.5%（前期5.4%）、「長くなった」が17.7%（同18.3%）であることから、D Iは△15.2（同△12.9）となった。また、79.8%（同76.3%）の企業は「変わらない」としている。

**[4～6月期の見通し]** 4～6月期の見通し（当期比）をみると、「短くなる」とみる企業が2.9%、「長くなる」が14.1%であることから、D Iは△11.2（当期△15.2）となる。また、83.0%の企業は「変わらない」とみている。

#### (5) 仕入代金決済期間

**[1～3月期の実績]** 仕入代金決済期間（前期比）については、「長くなった」とする企業が5.0%（前期5.4%）、「短くなった」が5.4%（同6.2%）であることから、D Iは△0.4（同△0.8）となった。また、89.6%（同88.4%）の企業は「変わらない」としている。

**[4～6月期の見通し]** 4～6月期の見通し（当期比）をみると、「長くなる」とみる企業が4.5%、「短くなる」が4.1%であることから、D Iは0.4（当期△0.4）となる。また、91.4%の企業は「変わらない」とみている。

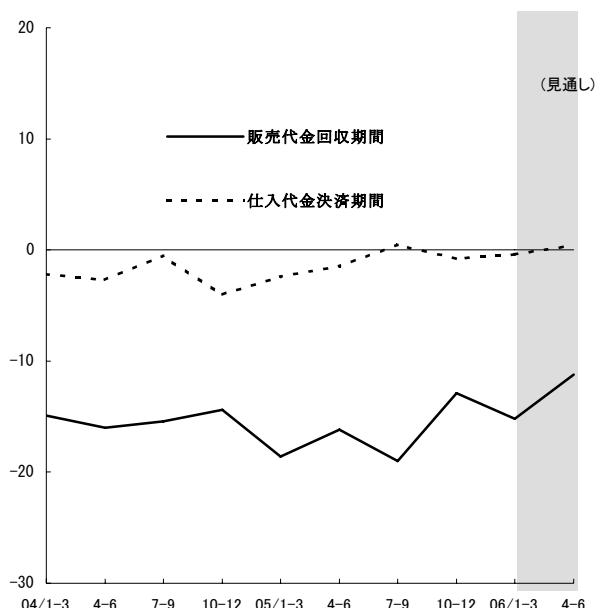
販売代金回収期間(前期比)

		（%）					DI
期	短く	やや短	不変	やや長	長く		
全業種	1～3 （実績）	0.0	2.5	79.8	13.6	4.1	-15.2
	4～6 （見通し）	0.0	2.9	83.0	11.2	2.9	-11.2

仕入代金決済期間(前期比)

		（%）					DI
期	長く	やや長	不変	やや短	短く		
全業種	1～3 （実績）	0.0	5.0	89.6	5.0	0.4	-0.4
	4～6 （見通し）	0.4	4.1	91.4	4.1	0.0	0.4

販売代金回収期間動向(前期比)  
（「短くなった」企業比率－「長くなった」企業比率）  
仕入代金決済期間動向(前期比)  
（「長くなった」企業比率－「短くなった」企業比率）





## 5. 経営上の問題点について

### ～ 「売上・受注不振」が依然トップ ～

1～3月期における経営上の問題点をみると、**全業種**では「売上・受注不振」29.3%（前期32.6%）、「過当競争」16.9%（同15.5%）、「収益不振」14.9%（同16.4%）、「販売価格安」12.4%（同11.2%）、「原材料・仕入価格高」8.9%（同7.9%）の順となり、上位の項目に変化はなかった。

業種別に上位3項目をみると、**製造業**では①「受注不振」26.3%（前期32.4%）、②「原材料・仕入価格高」15.8%（同14.7%）、③「販売価格安」12.8%（同11.8%）。**建設業**では①「受注不振」34.7%（同37.1%）、②「過当競争」22.0%（同21.9%）、③「収益不振」15.3%（同15.2%）。**卸・小売業**では①「売上不振」28.8%（同31.2%）、②「過当競争」17.8%（同16.5%）、③「収益不振」16.2%（同18.2%）となっている。

いずれの業種とも「売上・受注不振」がトップとなり、次いで「過当競争」「収益不振」が上位を占めているが、製造業では「原材料・仕入価格高」が2位となっており、他業種に比して高くなっている。

